

大学間連携

【特に優れた取組】

京都大学  同志社大学

【優れた取組】

千葉大学  金沢大学

大阪大学  関西大学

九州大学  岡山大学

※ 平成29年度法科大学院公的支援見直し強化・加算プログラム審査結果(平成28年12月26日公表)より

◇プログラム名

同志社大学法科大学院への支援



◇プログラム名

京都大学法科大学院との連携によるカリキュラムの見直しと単位互換プログラムの開発・実施



趣旨・ねらい

京都大学法科大学院と同志社大学法科大学院において、①必修科目を中心とした単位互換プログラムの継続実施、②両者の連携による同志社大学法科大学院のカリキュラム・教育方法の改善、③連携を強化するための組織体制の整備・授業内容に関する相互理解を推進するための組織的取組を実施する。

取組のポイント

①必修科目を中心とした単位互換プログラムの継続実施

・H28年度は、京都大学では2年次・3年次の必修科目を中心とした7科目、同志社大学では外国法関連科目3科目を単位互換科目に指定し、相互に学生を受入れ。

(主な実績・成果)

・京都大学における受入れ科目数・人数の拡大
H27年度: 5科目・5人 → H28年度: 7科目・32人
「民事訴訟法総合2」「民法法文書作成」をH28年度から新たな受入れ科目に指定

②同志社大学法科大学院における教育への助言

同志社大学法科大学院において、
・京都大学の受入れ科目における授業方法や定期試験の内容・難易度等を参考にした授業内容の見直し
・京都大学の教材作成の方法を参考にした教材の見直し
・京都大学での受入れを新たに可能とするための授業内容の調整
・学生の負担を軽減し学力に応じた教育を提供するためにカリキュラムの見直しを実施。

(主な実績・成果)

・カリキュラムの見直し (※右記参照)
・教育方法の改善 (※右記参照)

③連携を強化するための組織体制の整備

・「FD分科会」(法律基本科目の分野ごと)の継続的な開催。
・「FD協議会」(両法科大学院の執行部を構成員)をH28年2月に設置し、カリキュラム全体の改善・調整について協議し、制度に関わる改善策を検討するための組織体制を整備。

「京都大学」



◆ 単位互換プログラムの継続実施・拡充

-同志社大学法科大学院生の受入れ科目数・人数を7科目・32人に拡大
-H28年度開講の外国法関連科目を本学の学生が受講することにより、同志社大学における国際教育プログラムの活性化や安定的な実施に寄与

◆ 受入れを新たに可能とするための授業内容の調整

-H29年度にも新たな受入れ科目の開設を予定

◆ 「FD協議会」を新たに設置

-カリキュラム全体や制度に関わる事項を取り扱う体制の整備により、両法科大学院の連携を強化

◆ 「FD分科会」の継続的な開催

-法律基本科目の分野ごとに、授業参観実施や授業資料等を共有

「同志社大学」



◆ カリキュラムの見直し

-法学既修者入試合格者を対象とした基礎科目の一部の履修を免除するための試験の導入
-習熟度別クラスの拡充(2クラス→4クラスに細分化)
-法学未修者に対し法律基礎科目の学修状況に対応した文書作成実習の導入
-修了必要単位数の削減等の検討

◆ 教育方法の改善

-授業と平行した学修支援の実施
-学修内容の定着を図るため法律基礎科目の一部で中間試験や基礎知識確認試験を導入



◇プログラム名

小規模法科大学院の各特色を活かした連携によるきめ細かな法曹教育の実現

趣旨・ねらい

ICTを活用して、両大学院の強みとする教育内容をそれぞれ他方の法科大学院に提供する。また、各大学から他方の大学へ学生を派遣し、それぞれの地域の法実務の特性を知る機会を提供する。また、合同FDなどを通じて双方の教育水準の上げを図る。

取組のポイント

①共同開講科目「現代法の諸問題」

- ICTを活用し、単独では実施困難なテーマ・内容の授業をそれぞれの大学から遠隔授業の形式により実施する。

(主な実績・成果)

- 「情報」をテーマに公法、民事法、刑事法の各分野で授業を実施。両大学で利用可能な教育支援システムを構築し、適切な事前及び事後の自習を可能にした。

②両大学院の特徴ある授業のICTによる提供

- それぞれの大学院が強みとする授業を映像によるオンデマンド及びライブによる配信により提供。

(主な実績・成果)

- H27は千葉大から刑事法科目のみの提供だったが、H28は金沢大からも民事法科目を提供。
- 学生の自習、補習に活用されつつある。

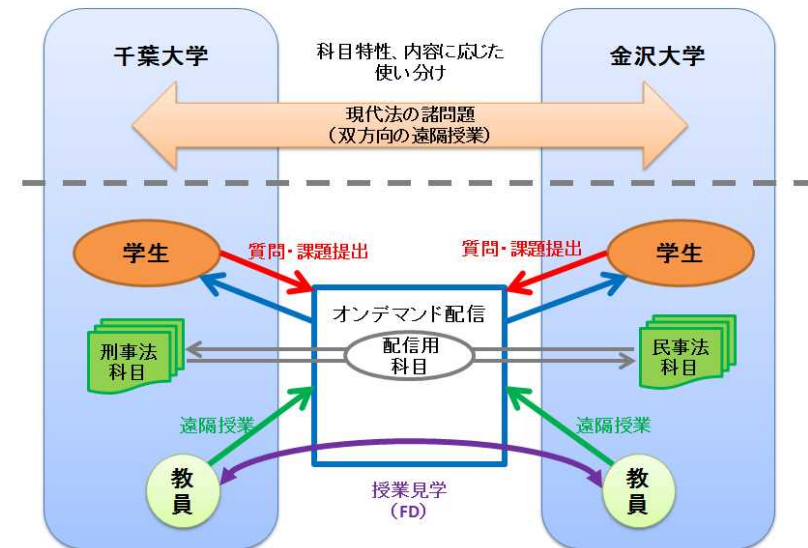
③地域の特性に応じた法実務体験のための学生交流

- 千葉では薬物事犯、人身犯の裁判員裁判が多いため、その傍聴を一緒に行い、刑事裁判官を交えた交流会を実施。
- 金沢では、民事案件のクリニックを傍聴し、北陸地域の現状を知る機会を提供し、地元弁護士を交えた交流会を実施。

(主な実績・成果)

- H28は各大学院より10名前後の学生が参加。なお、H27は千葉大から金沢大のプログラムへの参加は2名だったがH28は10名となった。

金沢大学との連携(ICT関係)



ICTの活用を模索するなかで、ライブ配信向きの授業とオンデマンド配信に適する授業との違いが次第に明確になりつつある。なお、千葉大では千葉大の録画授業の一部を法科大学院進学希望の学生にも配信することを計画中。



◇プログラム名

関西大学法科大学院への支援の取組



◇プログラム名

大阪大学法科大学院との連携による教育改革

趣旨・ねらい

大阪大学及び関西大学双方の法科大学院の特色ある科目の単位互換、FD活動の共同化に加えて、教育連携協議会においてカリキュラム改善提案等を具体化し、関西大学法科大学院における教育力の向上を図る。

取組のポイント

①特色科目の単位互換

- 大阪大学からは、特殊講義（特許・著作権訴訟）や社会保障法など9科目を、関西大学からは中国ビジネス講義、医事法、アジア進出企業支援など11科目を提供している。

（主な実績・成果）

- 相手大学提供科目の履修状況
H27: 0科目 0人 → H28: 4科目 3人

②カリキュラム改善提案

- 関西大学の1年次（未修者）配当科目に、訴訟法科目が含まれていなかったことから、大阪大学から入門的な科目の配置を提案し、また、刑事訴訟法の教材を提供した。

（主な実績・成果）

- 民事・刑事の手続法講座「法と社会（裁判実務）」（1～3年次配当・2単位）が新設された。

③FD活動の共同化

- 相互に授業見学会に参加し、その後報告書を提出したり、意見交換を行うなどしたりして、教員の教育力向上に努めている。分野別・科目別で行うことも検討してゆく。

（主な実績・成果）

- 大阪大学における外部講師によるモデル授業への参加教員数
H27: 3人 → H28: 4人
- 関西大学における公開授業（秋学期）への参加教員数
H27: 5人 → H28: 7人

関西大学法科大学院への支援の取組
大阪大学法科大学院との連携による教育改革



大阪大学
高等司法研究科

関西大学
法務研究科



教育連携協議会
設置

物理的距離という障壁を越えた連携へ

第1段階

双方の特色ある科目を中心に単位の相互認定やFD活動の共同化

- ✓ 勉学意欲の向上、
- ✓ 学生同士の協力関係構築
- ✓ 競争意識を高める
- ✓ 学修の機会を増加
- ✓ 教員間のFDによる連携

第2段階

カリキュラム改革検討委員会設置
→カリキュラムの改善を提案

- ✓ 未修者の司法試験合格率増加の可能性

第3段階

大阪弁護士会と継続教育（リカレント）を実施し、大阪地域の法科大学院の存在意義を高める。

- ✓ 実務家の質の向上
- ✓ 京阪神の大学生や高校生に対する広報活動



◇プログラム名

法律基本科目を中心とした教育成果向上のための
大学連携プログラム



◇プログラム名

九州大学法科大学院との包括的教育連携協定に基づく法律基本科目を中心とした教育力改善・強化のための取組

趣旨・ねらい

九州大学法科大学院と岡山大学法科大学院の間で法律基本科目を中心とした教育連携を行い、岡山大学法科大学院の教育力改善・強化を図るとともに、教育内容・方法の検証により九州大学法科大学院の教育力向上にも資することを目的とする。

取組のポイント

①法律基本科目における協働・連携

- ・計画的かつ整合的な連携の推進のため連携協議会を組織し、法律基本科目を中心とした授業参観及び共同FD、同一の科目担当者間での教材・試験問題の共同検討を実施する。

(主な実績・成果)

- ・九大では九州沖縄地区及び福岡県内での大学間連携の実績。
- ・岡大では弁護士会と連携した授業参観と拡大FDを実施。
- ・H28年7月に連携協定を締結、連携協議会を開催。

②学修アドバイザー制度の構築・整備のための連携

- ・九大で成果を上げている学修アドバイザー制度（修了生である若手弁護士による指導制度）を踏まえ、岡大の教育手法の改善に向けた情報交換及び共同FD等を実施する。

(主な実績・成果)

- ・九大ではH26年度以降4名の学修アドバイザーを雇用。
- ・岡大では修了生が後輩等を指導する少人数ゼミを実施。

③在学生及び修了生の受入れ

- ・「特別聴講学生」制度の導入とともに、修了生に対し出身地に近い法科大学院が法務研究員等の資格を付与して学習の場を提供する仕組みを構築する。

(主な実績・成果)

- ・九大では鹿児島大学から8名の内地留学生の受入実績。
- ・H28年度より九大が岡大修了生1名を試行的に受入れ。

教育連携の概要

